

入館者の募集（詳しくは 別途「募集案内」をご参照）

募集学生数：毎年度 30 名程度

入館の資格：石川県、富山県の出身で、本学館から通学できる屋間 4 年制または 6 年制大学の次年度入学予定者、及び在学中で次年度に 2 年または 3 年進級予定者。また、共同生活の意義を理解し、館則を守り規律ある生活のできる者。

選 考：面接、書類審査による（1 月及び 3 月 計 2 回）。

加越能育英社評議員・役員・石川富山明倫学館職員 2025年8月現在

役職名	氏名	（現職又は元職）
評議員	稲波 良孝	（株）サンコー 代表取締役社長）
	魚 直樹	（（一社）石川県発明協会 常務理事兼事務局長）
	小幡 直樹	（みかりば・小幡歯科医院 会長）
	熊野 隆喜	（元・大成ユーレック（株） 会長）
	黒田 敬一	（元・（株）NHKアート 専務取締役）
	高島 進	（元・自治省審議官）
	中野 恵子	（株）日経BPコンサルティング 取締役）
	林 周斗	（東京科学大学 准教授）
	原 俊道	（元・東京海上日動火災保険（株）
	番場 孝司	（元・（公財）国際文化会館 常務理事）
	前田 利宜	（株）イノダコーヒ 社長 前田家 19 代当主）
	松井 哲夫	（（一社）日本クレジット協会 副会長専務理事）
	吉森 照夫	（弁護士）
理事長	谷村 大作	（元・スカイマーク（株） 監査役）
常務理事	梶川 啓司	（元・小松製作所健康保険組合 専務理事）
	嶋田 良夫	（東京野々市会 顧問）
	西尾 得悟郎	（元・阪和工材（株） 社長）
理事	伊東 眞	（（一社）富山県芸術文化協会 会長）
	高橋 直也	（新菱アクアエア（株） 顧問）
	中井 裕	（富山県首都圏本部 本部長）
	中田 理	（なかた整形外科クリニック 理事長）
	中村 哲也	（共栄大学国際経営学部 教授）
	堀田 誉	（石川県東京事務所 所長）
	宮本 宣良	（元・富山市歯科医師会 会長）
監 事	辰村 裕司	（元・（株）NTT ファシリティーズ 副社長）
	松本 雅登	（元・北陸銀行 取締役常務執行役員）

(50 音順)

石川富山明倫学館職員
塾長 田澤 正樹

施設概要

寮 棟：学生用居室 120 室（全室洋室 1 人部屋 12 m²：机、Bed、光 fiber 専用線、クローゼット、エアコン 他）
共用設備（洗濯機・乾燥機 他）

共 用 棟：食堂（平日朝夕提供）、自炊設備、大浴場、
図書室 / 学習室、物干し場、自転車置場、総務室、
会議室、塾長宿直室 他

敷地面積：1,994 m² / 建築面積：928 m² / 延床面積：2,963 m²

費用

部屋代：	月額	30,000 円
食費（平日朝夕 2 食）等：	月額	約 22,000 円
共益費等：	月額	15,000 円

入館金（一時金）：		50,000 円
保証金（退館時精算）：		30,000 円

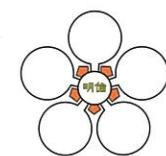
石川富山明倫学館付近案内図



交通機関 地下鉄 丸ノ内線、南北線「後楽園」より徒歩約 15 分
都営三田線、都営大江戸線「春日」より徒歩約 15 分
都営バス「伝通院前」より徒歩約 5 分

石川富山明倫学館

2025 年 11 月



公益財団法人 加越能育英社

〒112-8506 東京都文京区小石川 3 丁目 11 番 6 号
Tel：03-3811-4416
e-Mail：info@meirin.or.jp
HP：https://meirin.or.jp/



運営の目的

本学館は、公益財団法人「加越能育英社」が運営する学生寮で、石川県／富山県出身の志操堅固にして向学心に燃える男子学生を迎え入れ、勉学の便宜と経済的負担の軽減を図るとともに、共同生活を通して良好な人格を形成し、郷土のみならず、日本・世界の発展に寄与する有為の人材を育成することを目的とする。

入館者数累計

- ・明倫学館 : 1908 (M41) - 2014 (H26) 2,913名
- ・石川県学生寮 : 1959 (S34) - 2014 (H26) 1,361名
- ・石川富山明倫学館 : 2015 (H27) - 2025 (R07) 351名

石川富山明倫学館の沿革

- 明治12年(1879) 旧加賀藩士6名の匿名有志の拠金をもとに「育英社」創立
41年(1908) 林賢徳氏の主唱により、郷土青年学徒のための寄宿舎「明倫学館」(旧藩校名による)を開館、30余名の学生を収容。
大正2年(1913) 「明倫学館」は「育英社」に吸収合併
12年(1923) 関東大震災。石川県・富山県出身の罹災者延2千人を収容
昭和6年(1931) 「育英社」は文部省認可財団法人「加越能育英社」になる。
20年(1945) 東京大空襲により建物を全焼、閉館
27年(1952) 畠山一清社長ほかの尽力により、木造学生寮(673m²)再建戦後最初の学生54名受け入れ、復興開館
31年(1956) 鉄筋コンクリート3階建延752 m²の学生寮(定員120名)新築
33年(1958) 財団法人「石川県学生寮」認可される
34年(1959) 加越能育英社用地に「石川県学生寮」(定員80名)建設
35年(1960) 「加越能育英社創立80周年」。道場兼集会所「明倫堂」完成
41年(1966) 石川県学生寮、5階増築、定員100名に
42年(1967) 鉄筋コンクリート地上5階、地下1階1,434 m²の新館が完成(木造棟取り壊し)、定員140名に
54年(1979) 「育英社創立100周年」記念式典を挙行、図書室設置
56年(1981) 石碑「自彊不息」建立(石川県学生寮創立20周年記念事業)
61年(1986) 明倫学館、寮室の集約化に着手(3畳部屋の解消へ)
平成11年(1999) 「加越能育英社120周年」記念式典を挙行
14年(2002) 「明倫学館戦後再建50周年」記念式典を挙行
20年(2008) 「明倫学館創立100周年」記念式典を挙行
「石川県学生寮創立50周年」記念式典挙行
24年(2012) 加越能育英社「財団法人」から「公益財団法人」となる
25年(2013) 明倫学館と石川県学生寮の統合による全面建て替えを決定
26年(2014) 解体工事始まる。仮宿舎(西東京市田無)に塾生41名入居
27年(2015) 新学生寮竣工「石川富山明倫学館」(定員120名)運営開始
29年(2017) 「石川富山明倫学館同窓会」発足
令和元年(2019) 「加越能育英社 創立140周年・石川富山明倫学館開館111周年」記念式典を挙行

在館生の大学

2025年4月1日現在

青山学院大学 亜細亜大学 慶應義塾大学 芝浦工業大学
専修大学 拓殖大学 千葉大学 中央大学 東京海洋大学
東京科学大学 東京外国語大学 東京大学 東京農業大学
東洋大学 日本大学 一橋大学 法政大学 明治大学
横浜国立大学 立教大学 早稲田大学 (50音順)

主な年間行事

- 4月 入館式 オリエンテーション
- 6月 加越能育英社 理事会・評議員会
スポーツ大会
- 7月 保護者会
- 9月 畠山奨学生募集
- 11月 寮祭
高校訪問(石川、富山)
畠山一清翁墓参
- 1月 新入館生募集・選考(第1回)
- 2月 卒館式、加越能育英社 理事会
畠山育英賞表彰
- 3月 新入館生選考(第2回)
退館完了 入館開始

年度により多少の異同があります。

寮生活風景



門柱は語る

作詞 横山健太郎(平成十五年入塾)
作曲 横山和也(平成十七年入塾)

一、文京の地に 根を下ろす ああ明倫の 門柱は語る
移ろう時代に 変わらざる まことを胸に 学びゆく
真白き壁に 抱かれて 真白き梅の つぼみ育む

二、扉と扉 開け放ち ああ明倫に 若人集う
行き交う言葉 果てしなく 夜ごとに夢を 語り合う
友と心を通わせて 廊下の先に 続く未来よ

三、小さき我ら 巣立つとき ああ明倫は 心の礎
世紀を越えて とめどなく 明倫の志士 湧き出づる
くにを背負いて 川をなし やがて世界に 大河を成さん
(明倫学館百周年記念寮歌)